

政策評価調書（個別票1）

【政策ごとの予算額等】

政策名		国際機関を通じた経済及び社会分野に係る国際貢献		評価方式	総合・実績・事業	番号	⑬
		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度概算要求額	
予算 の 状 況	当 初 予 算 （ 千 円 ）	20,792,176	14,189,195	13,759,335	12,626,839	11,095,190	
	補 正 予 算 （ 千 円 ）	7,809,335	0	0	△ 184,780		
	繰 越 し 等 （ 千 円 ）	0	0	0			
計（千円）		28,601,511	14,189,195	13,759,335			
執行額（千円）		28,591,365	14,188,734	13,725,593			
達成すべき目標及び 目標の達成度合いの 測定方法		（平成23年度については、アジア欧州財団（ASEF）拠出金を代表例として評価を行った。） アジア欧州会合（ASEM）及びアジア欧州財団（ASEF）の目的であるアジアと欧州の相互理解の促進に貢献すること。 本施策を構成する具体的施策は以下のとおり。 1 知的、文化的、人的交流プロジェクトを通じて、多様な文化的・社会的背景を有するアジアと欧州の相互理解を促進すること。 2 我が国のイヤマーク事業を通じて、他のアジアと欧州の国々に向けて、我が国の政策や文化について広報すること。 3 レベルAの事務局経費拠出国として、ASEFの効率的・効果的な運営を推進すること。					
政策評価結果を受けて 改善すべき点		平成23年度においては、ASEF事務局運営経費としてレベルAの拠出を行い、その国力にふさわしい貢献を示し、プロジェクト実施経費をASEF事業「第9回ASEFUN（ASEF大学同窓会ネットワーク）年次会合」に充て、右の開催を支援した。同会合ではアジアと欧州の青年約100名が3日間集中的に会合し、両地域の共通関心事項である環境と持続可能性について議論を深める機会を提供し、両地域において将来有望な青年相互の交流と啓発に貢献したことから施策の必要性・有効性が認められ、かつ施策の効率性についても投入された資源が無駄なく活用され、施策の目標達成に向けて進展があったと評価されていることから、平成24年度も必要な見直し・改善を行いつつ引き続きASEFへの積極的な参画に努める。					
政策評価結果の予算概算要求等 への反映状況		我が国は、ASEFの事務局運営経費（拠出はASEM参加国の政治的道義的義務）に3段階のうち最高額のレベルA（A:B:Cの比率は3:2:1）の拠出を行っている。また、ASEFはアジアと欧州との相互理解促進のための知的、文化的、人的交流プロジェクトを実施しており、同実施経費はASEM参加国・機関の任意拠出金によって賄われていることから、プロジェクト実施経費にも拠出している。我が国は、執行委員会等全てのASEF理事会関連の委員会に参加しており、ASEFの運営に大きな影響力を有している。我が国が引き続き、ASEFに対してその国力にふさわしい貢献を示し、アジアと欧州との相互理解の促進というASEM及びASEFの目的の実現に貢献するため、事務局運営経費（レベルA）及びプロジェクト実施のための経費を要求した。					

政策評価調書（個別票2）

【政策に含まれる事項の整理】

政策名	国際機関を通じた経済及び社会分野に係る国際貢献					番号	⑰	(千円)	
	予 算 科 目					予算額		政策評価結果の反映による見直し額合計	
	整理番号	会計	組織／勘定	項	事項	23年度 当初予算額	24年度 概算要求額		
対応表において● となっているもの	A	1	一般	外務本省	国際分担金其他諸費	経済協力に係る国際機関等を通じた経済・社会分野に係る国際貢献に必要な経費	11,709,730	10,166,010	
	A	2	一般	外務本省	国際分担金其他諸費	国際機関等を通じた経済・社会分野に係る国際貢献に必要な経費	917,109	929,180	
	A	3							
	A	4							
	小計						12,626,839	11,095,190	
対応表において◆ となっているもの	B	1							
	B	2							
	B	3							
	B	4							
	小計								
対応表において○ となっているもの	C	1							
	C	2							
	C	3							
	C	4							
	小計								
対応表において◇ となっているもの	D	1							
	D	2							
	D	3							
	D	4							
合計						12,626,839	11,095,190		

政策評価調書（個別票3）

【見直しの内訳・具体的な反映内容】

政策名		国際機関を通じた経済及び社会分野に係る国際貢献				番号	⑪	(千円)
事務事業名	整理番号		予算額			政策評価結果の反映による見直し額(削減額)	政策評価結果の概算要求への反映内容	
			23年度 当初 予算額	24年度 概算要求額	増減			
合計								

平成 23 年度（平成 22 年度に実施した施策に係る）政策評価書要旨

評価実施時期：平成 23 年 9 月

担当部局名：外務省アジア欧州協力室

施策名	国際機関を通じた経済及び社会分野に係る 国際貢献 (政策評価書 478 頁)	政策体系上の位置付け
		基本目標Ⅶ 分担金・拠出金 Ⅶ－2 国際機関を通じた経済及び社会分 野に係る国際貢献
施策の概要	(本年度については、アジア欧州財団拠出金を取り上げて評価することとした。) アジア欧州財団(ASEF)は、アジア及び欧州の 48 か国・機関が参加するアジア欧州会合(ASEM)の唯一の常設機関であり、アジア・欧州間の相互理解の増進のため、知的・文化・人物交流及び広報の各分野における活動を組織・支援している。この ASEF の活動は、ASEM 参加国の拠出金(拠出が道義的・政治的義務である「事務局運営経費」及び任意拠出としての「プロジェクト経費」)により運営されており、我が国も ASEF 設立以来継続的に拠出している。	
施策に関する 評価結果の概 要と達成すべき 目標等	【評価結果の概要】 (総合的評価) 「目標の達成に向けて進展があった。」 ★★★☆☆ (理由) ASEF 事業「第 9 回 ASEFUAN (ASEF 大学同窓会ネットワーク) 年次会合」(平成 22 年 8 月、於：東京)の開催を支援した。本件事業を通じ、アジアと欧州の青年約 100 名が 3 日間集中的に会合し、両地域の共通関心事項である環境と持続可能性について議論を深める機会を提供し、両地域において将来有望な青年相互の交流と啓発に貢献した。 (施策の必要性) 事務局運営経費：平成 18 年の第 6 回 ASEM 首脳会合において、ASEF の事務局運営経費への拠出を各国の道義的・政治的義務とし、A～C の 3 段階から選択して拠出する拠出方式(通称「ヘルシンキ・フォーミュラ」)が承認された。我が国や欧州の主要国のみならず、中国、韓国、シンガポール等 13 か国・機関が最高のレベル A の拠出をしており、我が国も引き続きその国力にふさわしい貢献が求められている。 プロジェクト経費：ASEF のプロジェクト経費は ASEM 参加国・機関の任意拠出金で賄われていることから、我が国のイヤマーク事業(拠出を約束している事業)の実施を通じて ASEM プロセスにおける我が国の関与を示し、強い発言力を確保しつつ、アジア・欧州間の対話と協力を推進していくために、継続的な拠出が重要である。 (施策の有効性) 事務局運営経費：レベル A の拠出によって、ASEF に対する高いレベルの貢献を示すことができ、ASEM プロセスにおける我が国の立場を強化できる。特に、我が国と基本的価値を共有し、現在の国際社会で影響力を増大させている欧州が関与する ASEF に対して、我が国が積極的な貢献姿勢を示すことは、ASEM における我が国の政策推進上も重要である。 プロジェクト経費：ASEF 事業はアジア・欧州の交流促進に直接資するだけでなく、我が国に關係の深いテーマ(環境、青少年交流等)についての事業を我が国のイヤマーク事業として行うことは、アジア・欧州諸国に向けて、我が国の政策や文化・社会について広報する手段としても有効である。	

関係する施政方針演説等内閣の重要政策（主なもの）	（施策の効率性） 事務局運営経費：ヘルシンキ・フォーミュラ導入以来、ASEF の事務局運営経費に関するレベル別の国・機関数は、それぞれレベルAが 13、レベルBが 14、レベルCが 15、特別割引が3で一定している。平成 22 年の場合、事務局運営経費総額に占める 1 か国当たりの負担割合は最高のレベルAでも 3.6%であり、比較的低い拠出割合で高いプレゼンスを示すことができる。 プロジェクト経費：ASEF 事業は 50 近くある ASEM メンバー国からの参加者を一堂に集めて実施されるため、1 件の我が国のイヤマーク事業実施を通じて、多くの国の人々に我が国の事情や政策についての理解を深めさせることができる。 （反映の方向性） 引き続き国力にふさわしい貢献が求められていることから、ASEM プロセスにおける我が国の関与を示し、強い発言力を確保するためにも、事務局運営経費にレベルAの拠出を行うとともに、プロジェクト経費へも継続的な拠出を行う。 【達成すべき目標、測定指標、目標期間、測定結果 等】 （施策の目標） 我が国の経済・社会分野での国益を保護するために国際機関に対して分担金・拠出金を供与すること （目標の達成状況） 評価の切り口 1： ASEF の活動に対する我が国の財政的貢献 我が国が、主要貢献国の一つとして拠出金を供与することにより、ASEF における高いプレゼンスを示しつつ、ASEF によるアジア欧州間の文化、知的及び人的交流促進事業の実施に貢献できた。ASEF のこのような取組及び我が国による ASEF に対する貢献への評価は高く、ASEM プロセスにおいて日本の立場を強化することに役立っている。		
	施政方針演説等	年月日	記載事項（抜粋）
	特になし		

（注）外務省における評価方式：
 実績評価方式の手法を踏まえつつ、外交政策の特性を勘案し、総合評価方式の手法を取り入れた評価を行うものとする（「外務省における政策評価の基本計画」より）